

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101335		
法人名	有限会社 大垣ケアサービス		
事業所名	グループホームあおぞら		
所在地	岐阜県大垣市林町8丁目69番地		
自己評価作成日	令和2年7月1日	評価結果市町村受理日	令和2年9月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172101335-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年7月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでもその人らしさを大切に」を運営理念に挙げています。ご利用者様一人ひとりの生活歴やその人らしさを理解しケアに取り組んでいます。また、地域密着型のサービスとして、地域の中に溶け込み、認知症への理解を深めていただけるよう努力しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、駅から近い場所にあり、車に乗ることの出来ない家族等には便利で、訪問の機会も多い。新型コロナの影響で、運営推進会議を書面会議で行う等、工夫している。また、独自の面会制限レベルを設けたり、入居相談には、写真で説明するなど対応している。利用者の身体機能低下を鑑み、今年度、機械浴を導入しており、安心・安全に入浴を支援することが出来ている。職員の介助時における身体的負担の軽減にも繋がっている。協力医、看護師、地域医療との連携により、皮膚科の訪問診療も導入しており、経験豊かな職員の支援を受けながら、利用者は安心して過ごすことができている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員数の2/3くらいが 3. 職員数の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつまでもその人らしさを大切に」を運営理念に挙げています。利用者が住み慣れた地域の中で、いつまでもその人らしさを大切にしたい生活が送れるよう努力しています。	運営理念「いつまでもその人らしさを大切に」を掲げ、地域密着型サービスの意義をふまえながら、支援に努めている。日々、理念に沿ったケアができていないか、時には立ち止まり、振り返りをしながら、管理者と職員が意見交換を行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護実習の受け入れを行ったり、地域の中学生の職場体験の受け入れ等を行っています。自治会でされている「いきいきサロン」で年に1度認知症についての講話ができるよう取り組んでいます。	利用者が、日々の生活の中で、地域住民とつながりを持てるよう、地域行事への参加を支援している。また、介護現場の様子や認知症について、地域で説明する機会を設けている。今年は、予定していた交流が難しい状況でもあり、中止となったものもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ認知症の理解を深めていただけるよう「いきいきサロン」で講話が行えるよう取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2か月のペースで開催をしています。現在は書面での開催となっているため、ホームの現状や取り組みが分かりやすい資料を提供できるよう工夫したり、広く意見が伺えるよう「評価・要望・助言」等の返信もお願いしています。	隔月に開催する運営推進会議は、今年は新型コロナの影響により、書面での開催とした。関係者をはじめ、家族も会議の趣旨を理解して、文書化での意見交換となった。今後は、オンライン運営推進会議も視野に入れ、行政に確認していく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政主体の研修会や事業者連絡会に出席したり、担当課へ介護保険制度に関わる相談等を行っています。	行政から新型コロナ対応策や関係情報が適切に提供され、職員間で共有し、対応に努めている。事業所での困難事例や運営状況を報告し、意見交換を行っている。行政主催の研修会等には積極的に参加し、協力関係の構築と連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを実施しています。「身体拘束適正化のための指針」を元に、定期的な会議を開催しホーム全体で取り組んでいます。	「身体拘束適正化のための指針」をもとに、委員会を3ヶ月毎に開催している。外部研修にも参加し、職員全体で具体例を挙げながら、身体拘束ゼロの取り組みについて話し合い、周知徹底を図っている。スピーチロック等の研修も計画中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起こる原因や防止策について外部の研修会に参加したり、ニュースで取り上げられたケースを事例としてレポートやアンケート等を実施し防止に努めています。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料提供や外部研修への参加等でスタッフが学ぶ機会を持てるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の終結・解約時には契約内容の説明や重要事項説明書の内容説明を丁寧に行っています。説明時には不明点や不安定がないよう確認を行いながら実施しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に家族から心配事や確認事項がないか等の声かけを行い、家族の思いに寄り添い意見や要望の把握に努めています。	書面による運営推進会議を開催したことで、多くの家族から意見や要望を聞くことができた。運営推進会議の趣旨を伝え、議題も家族が興味を持ってそうな項目を選んでいる。結果的に、家族の意見も増え、信頼関係構築にプラスに作用している。	以前、通信を発行していたが、一時休止をしている。利用者の日々の暮らしぶりや、事業所の取り組み状況を伝えられるよう、通信の発行を再開する計画にある。より良い家族向け通信の復活に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に気付いたことを職員とその都度話し合い改善につなげています。職員全員が利用者の状態を把握し共有しながら運営に反映させています。	理念である「いつまでもその人らしさを大切に」を全職員が意識し、気付きや課題を話し合いながら、改善につなげている。代表、管理者は、風通しの良い職場環境作りに努め、職員との意見交換を定期的に行っている。勤続年数の長い職員も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望に沿った休日の確保や有休休暇の取得の積極的に行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修等への参加のアナウンスを行い、参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の定例会や研修へ参加。また事業所内の他部署の職員とも交流を持ち意見の交換等を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に、本人や家族から入居に対する思いや不安、必要なケアについての情報が得られるように話し合いを行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望や不安等を確認し、家族の思いや生活背景を理解し、サービスを進めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提供できるサービスは迅速に対応し、外部サービスが必要と思われる場合はサービスの利用を進めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事やお茶を一緒にしたり、家事活動を一緒に取り組む等、時間を共有することで共に生活しているという気持ちが築けるよう努めています。 (現在感染症予防のため食事やお茶を一緒に摂取することを見合わせています)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の不安や負担を理解しながら、家族にしかできない支援があることを説明し協力を得ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染予防のため、外出・面会頻度は減ったが、可能な限り本人の希望、馴染みの関係が途切れないよう努力している。	新型コロナウイルス感染予防対策のため、面会や外出を自粛し、事業所で出来ることを工夫している。利用者にも分かりやすく説明し、これまで以上に家族や知人等との絆を大切にしている。また、コミュニケーションを図りながら、会えなくても、気持ちの中で馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分のペースを大切にしながらも、他者との関係も築けるよう場面作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、本人が早く新しい環境に馴染めるよう、またこれまでの支援が継続して行えるように情報提供を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、本人の思いや意向を確認し、入居後は会話や日常生活を通じてひとりひとりの思いを把握できるよう努めています。	職員は、入居前のアセスメントを参考に、利用者と時間をかけてコミュニケーションを図り、意向を把握している。また、利用者が、日々、安心して過ごせるよう信頼関係を築きながら、思いに寄り添うケアに努め、希望を実現できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴、入居後の暮らしの希望等の確認も行います。入院先や利用していたサービス事業所からも本人の様子や状況等の情報を得られるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日々の申し送り、会議の中で入居者一人ひとりに対する情報を職員で共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人から意見や要望を聞き取り、家族へは訪問時や文書での聞き取りを行っています。関係機関とも連携を図り介護計画を作成しています。	管理者が、ケアマネジャーでもあり、利用者一人ひとりの状態を把握している。職員や関係機関等と意見交換しながら、ケアプランを作成している。今後も、利用者の日々の生活、プランの経過など、家族と顔を合わせて話し合う場を設け、介護計画作成に活かす事を検討中である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを共有し、介護計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を理解し、可能な限り対応できるよう情報を集める等し、取り組んでいます。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や地域の情報を得て、参加できそうな行事へ足を運ぶようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人・家族の意向による選択が可能です。協力医は月2回の定期往診以外にも状態に変化があった場合には臨時往診による対応を行う等柔軟な体制をとっています。	利用者は、従前のかかりつけ医を継続し、受診は家族同行としていたが、緊急時や、家族の都合によっては、事業所で対応をしている。協力医による定期的な往診に加え、皮膚科の訪問診療も可能となり、医師間の連携と協力を得て、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護スタッフ・看護師が情報共有を行い、入居者の様子や体調の変化について相談・報告・指示・助言が行える体制をとっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院後は定期的な面会を行い、入居者や家族との関係の継続や医療機関との情報の共有に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についてのホームの指針を説明すると共に、本人や家族の思い・意向を確認し支援しています。	契約時に、重度化や終末期の事業所の指針を説明し同意を得ている。状態変化があった場合は、早い段階で関係者が話し合い、適切な対応をしている。地域の医療機関と連携し、緊急時の対応や看取り支援を適切に行えるよう、職員の研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡方法・救急車の要請・対応について随時確認を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、通報・誘導・初期消火の訓練を行っています。 災害伝言ダイヤルを活用することを家族へ通知し、使用方法についての説明を行っています。	水害訓練を実施するにあたって、職員への説明、家族の理解、地域の情報を取り入れながら、垂直避難を実践し、写真を含めた訓練実施記録を作成している。火災訓練は、消防署指導のもと、マニュアルに沿って取り組み、災害伝言ダイヤルの活用を家族の協力を得て進めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で入居者の尊厳やプライバシーが守られるように、ケアの方法や声かけについてスタッフ間で情報を共有しています。	利用者が、日々安心して過ごせるよう生活環境を整えている。日常的な支援の中で、無意識に利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう、職員間で互いに注意喚起し合い、情報を共有しながら適切なケアや接し方を行うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助や活動時等、その時々本人の希望を確認しています。言葉でうまく表現できない方も表情や態度で気持ちを汲み取り本人の思いに沿えるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中に、楽しみや張り合いとなる時間が持てるように体操やレク活動、家事活動の提案・提供を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣の乱れを整え、汚れや整容に関する援助を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好を把握し、食事の準備を行っています。食事に関わる一連の家事活動にも参加して頂けるよう声かけや支援をしています。	利用者は対面式のキッチンで職員と会話をしながら、可能な限り、準備や片付けを手伝っている。職員は、利用者一人ひとりの状態に合わせて、適切な調理方法で提供し、全員完食である。現在は、新型コロナウイルス感染予防に取組みながらの食事介助に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量の管理を行っています。毎月1回体重測定を行い往診時に報告しています。食事形態によっては外注を行い、安全に食事が行えるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声かけ・介助を実施しています。状態に合わせて歯科医師の往診を受け、義歯の調節や虫歯の治療を行っています。		

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の一人ひとりの排泄パターンを記録し、職員間で共有しています。尿意や便意があいまいであってもトイレに座る習慣を継続することでトイレでの排泄が維持できるよう努めています。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、利用者の表情、動作を見落とさないよう努め、声を掛けることでトイレでの排泄を習慣化させている。排泄用品の軽減にもつながっている。夜間は安全面に配慮した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを活用し、個人の排便リズムを把握しています。また、便秘が改善しない場合は関係機関(医師・看護師・薬剤師)へ相談を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴回数は基本2回/週ですが、毎日入浴が行える体制を整えています。また、浴槽の改修を行い機械浴を導入し、身体機能が低下しても安心して入浴が楽しめるようになりました。	機械浴の導入により、身体機能が低下した利用者も安心して入浴を楽しんでいる、基本的には週2回であるが、利用者の状態に合わせて、適切に支援を行っている。入浴支援は、利用者との1対1のコミュニケーションの場でもあり、個々の希望に応じながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活リズムに合わせた、起床・昼寝・就寝の時間となるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ薬剤師を中心とし、内服・外用薬の効果や副作用の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の「できること」「したいこと」に合わせて家事活動やレク活動等への参加をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染予防のために商店への外出機会は減っているが、状況が変われば以前のように希望の外出が行えるよう家族と連携を図り支援を行っていきます。	新型コロナウイルス感染予防対策のため、外出を自粛し、ウッドデッキで外気浴やティータイムを楽しんでいる。外出の機会が少ないことで、利用者の気持ちが沈まないよう、職員が明るい会話で支えている。	

岐阜県 グループホームあおぞら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族との相談により、本人の管理できるよう範囲内で金銭の所持を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から電話したいと申し出がある場合は、職員がダイヤルし直接お話ししていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「家庭」という雰囲気により近づけるよう、生活感や季節感を感じられるような空間作りをしています。穏やかでゆったりとした時間が過ごせるよう努めています。	共用空間は広くて明るい。居間や食堂の窓越しに、季節の移り変わりを眺めたり、近隣住民の日常生活を垣間見ることが出来る。外出しやすいよう玄関横にはスロープがある。事業所の周りを安全に散歩できるよう工夫しながら、少しでも居心地よく過ごすことができるよう環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓、座席等は入居者と相談しながら決めていきます。共有空間が心地よいものとなるよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅ですごしているような居室作りを支援しています。本人、家族と相談しながら馴染みの物や使い慣れたものを持参していただいています。	居室には、洗面台とベッドが備えられている。また、クローゼットがあり、整理整頓しやすく、安全に利用できる。利用者は、使い慣れた小物や思い出の写真を飾り、落ち着いて自分らしい生活ができるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境や、共有スペースの環境を整えて安全でより自立した生活が送れるよう工夫しています。		